

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	15182
課題名	複数回ボツリヌス療法を実施した患者における痙縮および関節可動域の経時的变化
研究期間	西暦 2016 年 4 月 1 日 ~ 2021 年 3 月 31 日
利用する情報、検体	<p>■診療情報（詳細： 年齢、性別、疾患名、発症日、関節可動域、痙縮の評価、ボツリヌス療法の頻度・単位数・部位、片麻痺運動機能評価、歩行能力、日常生活動作能力評価。 ）</p> <p><input type="checkbox"/>手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ）</p> <p><input type="checkbox"/>血液</p> <p><input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>※以下の期間に収集した情報、検体が対象となります 西暦 2011 年 6 月 1 日 ~ 2021 年 3 月 31 日</p>
研究の意義、目的	<p>腕と足の痙縮（筋肉のつっぱり）に対するボツリヌス療法が 2010 年に保険適応になった後、複数回のボツリヌス療法後にリハビリテーションを受けている患者は増加しています。</p> <p>ボツリヌス療法が広く行われるようになってきている中、長期間の経時的变化を追った先行研究は見当たりません。</p> <p>本研究の目的は、複数回ボツリヌス療法を実施した患者における痙縮（筋肉のつっぱり）と、関節可動域（関節の角度）の経時的变化を計測し、ボツリヌス療法の長期効果を明らかにすることです。</p>
研究の方法	カルテ上のデータをもとにおこなう研究です。ボツリヌス療法前・後（ボツリヌス療法 1 回目と 2 回目の間を 1 期、2 回目と 3 回目の間を 2 期、同様に 6 期まで分ける）で、Modified Ashworth Scale（痙縮の評価）、関節可動域を、比較検討します。
その他	なし。
個人情報について	利用する情報、検体からは、お名前や住所など、個人が特定できる情報は削除して取り扱いますので、個人情報が外部に漏えいすることはありません。研究成果発表（学会発表、学術論文への投稿）の際にも、個人が特定できる情報は利用しません。
問い合わせ等の窓口	<p>所属：リハビリテーション部</p> <p>氏名：呂 隆徳（ろ たかのり）</p> <p>電話番号：0166-69-3550</p>